

『DV防止紙芝居』

DVとは「ドメスティックバイオレンス」のことです。一般的に配偶者や恋人など親密な関係にある男性から女性への暴力をいいます。

私達推進員は、今回DVの紙芝居を持って公民館やシルバー祭りから要請を受け上演し600余名の方々に見てもらいました。

内容は、一流企業に勤務する夫と妻・子ども2人の4人家族。夫はふだん子煩悩でやさしいのですが、いつごろからか仕事でのストレスで家族にあたるようになりました。妻にも手をあげることが多くなり、妻は子ども2人と実家へ逃げ帰る。夫の迎えに家に戻るが、また繰り返し起こり暴力は過激になっていきます…。

夫や恋人からの暴力から逃げて身を隠す女性が増え続けています。

では、DVから逃れるためには、どうすればよいのでしょうか。

DVの防止と被害者支援の為に法律「DV防止法」があります。また身の危険を感じた時は警察に相談することもできます。

大判の紙芝居とともに迫力ある朗読劇を交えてDVの紹介をしてきました。参加者は食い入るように見て、時には笑いも起きました。見て理解して下さったお年寄りが家庭の団らんで話題にしたと聞き、その効果に小さな一歩を感じています。



ワーク・ライフ・バランス

射水市男女共同参画推進委員会 委員長 瀬山 和子

仕事をきっちりこなすためには、私生活を大切にすることが大事。

私生活と仕事はとても深く関連していると思います。

日々の生活で、自分の趣味の時間は大切。疲れをリセットすることで新たなやる気も出てくる。「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」は、ともすると育児、家事、介護など生活と仕事の両立支援への対応、また、女性の継続就労への施策と捉えられがちである。

しかし、自己啓発・地域貢献なども含めた広い視野で、仕事と生活の双方がWin-Winとなることが必要で、性別・年代・家族構成を問わず、より広い範囲での理解を進めることが大切であると思います。

ワーク・ライフ・バランスの取り組みが、リフレッシュだけでなく社員に多様性が生まれ、仕事のプラスになるように企業のためにも仕事を改善しつつ、また、貢献しつつ、私生活を、友達を、自分自身を大切に、誰もがごく自然に認め尊重し合う社会であって欲しいと思います。



仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)チェックシート

◆仕事と生活の調和とは

仕事は、暮らしを支え生きがいや喜びをもたらしてくれますが、家庭生活(家事や育児、介護)、地域・個人の生活(地域・社会活動や学習、趣味、娯楽、スポーツ)、休養なども暮らしには欠かせないものです。

生き生きと様々な活動をする事は、人生の生きがいや喜びとなります。

男性も女性もあらゆる世代の誰もが様々な活動を自分の希望するバランスで実現することは、大切なことです。このバランスをワーク・ライフ・バランスといいます。働き方を見直すことで、「仕事」と「仕事以外の生活」の両方が充実するといわれています。

◆ライフステージに応じて

勿論、働く人のライフステージによっても捉え方は異なります。若い世代は「仕事と育児や子育て」、子育てが終わった世代では「地域や社会活動、或いは孫の世話」との両立がかもしれません。また、企業にとっては「働き方の見直し(時間外労働の削減や年次有給休暇の取得促進など)」を進めることで人材の確保や効率性の向上が図られるなど、誰もが働きやすい職場環境づくりが重要となってきます。

◆チェックシートの作成

私たち男女共同参画推進委員会では、仕事と生活の調和をテーマにした男女共同参画巡回講座を市と協働で開催してきました。今回、その講座を踏まえて「仕事と生活の調和に関するチェックシート」を作成しました。

チェックシートを参考に自分の生き方を見つめなおしてみましょう。

生活の充実感	YES	仕事の充実感	YES
土・日曜・祝祭日以外も家族と一緒に夕食をとることが多い。	<input type="checkbox"/>	仕事に“やりがい”を感じる人が多い。	<input type="checkbox"/>
家族(夫婦)とゆっくり話す時間がある。	<input type="checkbox"/>	男性も女性も自由に意見が言える環境である。	<input type="checkbox"/>
残業しないように心がけている。	<input type="checkbox"/>	男女の区別なく、仕事の成果が認められている。	<input type="checkbox"/>
規則正しい生活(食生活)を心がけている。	<input type="checkbox"/>	上司や同僚とのコミュニケーションが図られている。	<input type="checkbox"/>
健康診断は定期的に受診している。	<input type="checkbox"/>	長時間労働は少なく、定時に退社するように心がけている。	<input type="checkbox"/>
仕事以外に趣味やスポーツ等に打ち込むものがある。	<input type="checkbox"/>	効率的な仕事ができるように常に考えて仕事をしている。	<input type="checkbox"/>
家事や子育て、介護等を家族で協力している。	<input type="checkbox"/>	年次有給休暇を有効に活用するなど、仕事と生活のバランスを心がけている。	<input type="checkbox"/>
地域での行事に参加するなど、ご近所付き合いをしている。	<input type="checkbox"/>	子育て支援制度(短時間勤務、出退勤時間変更など)の充実が必要だと思う。	<input type="checkbox"/>
地域のごみの収集日、分別のルールを知っている。	<input type="checkbox"/>	育児休業は、女性だけでなく男性も抵抗なく取得できればよいと思う。	<input type="checkbox"/>
自分自身のことや家族について、将来設計を立てている。	<input type="checkbox"/>	介護・育児休業後の職場復帰がスムーズにできるサポートが必要だと思う。	<input type="checkbox"/>

上記の項目で〔Yes〕の少ない方は、今より少しだけ生活面を見直すことが必要です。

上記の項目で〔Yes〕の少ない方は、仕事優先の傾向があるかもしれませんが、私生活にゆとりを持つことや職場の制度を利用してはいかがでしょうか。

(注)チェックリストは、企業に勤務する方を対象に取りまとめています。

ワークショップ風景



活動報告

越中だいもん凧祭りに参加して

今年の凧も県の「ともに築き輝く男女共同参画の実現」「共に羽ばたこう」のポスターデザインで製作し、コマーシャル競技部門で参加、推進委員全員で凧を引き大空高く舞い上がった。今年は、いい風が吹いて、約1時間程揚がり優秀賞まで頂きました。

推進委員で協力、団結、目標達成。こんな小さな積み重ねが大きな男女共同参画社会になるのかなぁと思いました。



三世代ふれあいクッキング

下地区では8月22日(金)、小学生・PTA・長生会の参加を得てクッキングを楽しみました。

調理の前に、小学生による「なかよしカルタ大会」を行い、すっかり打ち解けた雰囲気。その後、食生活改善推進協議会の方を講師に、「お手軽ピビンバ」「キャロットスープ」「米粉クレープ」の3品に挑戦。男の子の手をとって包丁の使い方をおじいちゃん、手早く調理・配膳する6年生、進んで準備や片付けをする姿に感心することばかり。会話ははずみ、おいしくいただきました。



家庭学習講演会

大島児童館で児童(小学生)を対象に「なかよしカルタ大会」を行いました。

使用したカルタは、「サンフォルテ」が男女共同参画社会の実現に向けて幼児や小学校低学年の児童を対象に製作したものです。

「あいてを思う気持ちを大切に」「のびのびといろんなことにチャレンジを」など、A4版に拡大した取り札を見せて、子ども達の前で何枚かカルタの説明をすると静かに聴き、内容を理解してくれたように思います。

カルタ取りでは、終始温かい雰囲気の中、子ども達は元気に取り札を取っていました。



家庭学習講演会

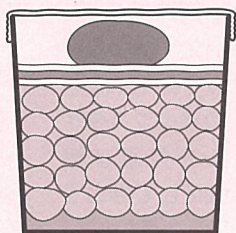
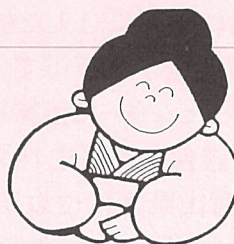
片口地区は、9月18日(休)に小学校PTAと合同で、家庭教育について真生会富山病院心療内科の明橋大二先生をお迎えして、講演会を開催致しました。

「少子化が進む中、両親が共に責任を分かち合っ、不安や負担を軽減する必要があり、それが不安から安心、そして自立への道につながる」と、具体的なお話をなさいました。親から子へと家庭の基盤を築き、互いに協力しながら、あらゆる分野で共に積極的に参画できる環境にしていける事を、いま一度考える機会ができました。

我家の味噌は手作り

1月24日(出)金山地区、青井谷公民館で昨秋収穫された地元産大豆を使って「寒味噌造り講習会」を開催致しました。この日はあいにくの雪模様でしたが男女問わず多数の参加があり、昔ながらの寒仕込み味噌ということで皆さんの関心が高かったようです。

味噌造りは、前日から大釜の設営、雪避けのシート張り、そ



して豆を水に浸す等、男性の方々は大活躍でした。そして、当日は早朝から豆を柔らかく煮、冷ましたところへ麹と塩を入れ加工機でつぶし味噌玉を作り半年後の完成を待ちます。又、味噌造りの過程は小学生も見学し、少し前の食文化を学んだようです。その後、子どもたちと推進員でかるたとりを行い、大広間は子どもたちの歓声で沸き大変盛り上がりしました。

第25回 日本女性会議2008とやま 「だれもが輝く未来のために」

「煌めく人とひと、連なる峰々へ」をスローガンに、10月17日～18日の2日間にわたって、富山市で開催され、我が推進委員会では15人が参加した。開会式はオーバードホール、国際会議場の二元中継で行われ、板東真理子内閣府男女共同参画局長の基調報告、広岡守穂中央大学教授の基調講演があった。そのあと、富山県出身の高橋はるみ北海道知事等4人によるパネルディスカッション、夜は富山市総合体育館で交流会が開催された。2日目は13の分科会で、それぞれ熱心に討議が交わされたあと、加藤登紀子さんの講演会があった。同じ会場で全体会議、閉会式があり、次回開催地大阪府堺市へ引き継がれた。全国から2,600人の方が参加されお互いに交流を深めた。



分科会の報告と感想

第2分科会「今、文化を考える 食の安全と地産地消」

4人のパネリストの中で印象に残ったのは、夫婦で都会から富山に移り住んで、自然と共存した農業文化を実践している橋本順子氏です。無農薬で鶏・ヤギ・合鴨と共に米や野菜など有機複合型自然農法を実施。命のつながりを五感で感じ、生かされていることを知り、心も体も元気になる生活こそが喜びであると話されました。

今、食の安全・食育が叫ばれている中、私達も食生活の見直しが必要な時と感じました。

第4分科会「歴史を生きた人々」に参加して

山・海・雪、この風土での女性の気質を歴史的観点から勤勉・忍耐・地味・素直・順応・備蓄に富んだ富山の女性像は、農と立山信仰を基盤に古代・中世より育まれてきた。更に近世・近代において報恩講などの活発化は団結力を、売薬業の発展は長期に留守宅を管理する能力が培われた。またこれらは、米騒動にみられるように、爆発的なエネルギーの原動力ともなったとの3名のパネリストの分析は大変、興味深く拝聴させていただいた。

第7分科会「女性と表現」

今、一番輝いているキャリアウーマン「女性の品格」の板東真理子さんの講演を聴きました。特に印象的だったのは、相手への思いやり、人は誰もがいいところを持っている、それを見出し引き出してあげる、また、女性がすべきことは、いろいろな人に支えてもらい人間的な力を蓄えることを強調され、品格の中にもユーモアを交えての心吸い込まれる講演でした。

同じ富山県人女性として誇りに思いました。

情報読み解き出前講座「DV防止と男女共同参画」

11月10日、小杉アイザックホールでサンフォルテからの出前講座を開催しました。情報読み解き出前講座で「DVに関する〇×クイズ」と題してゲームをしました。

その内容を少し紹介すると、

- ①「昨年秋に行われたインターネット調査では、男女とも約半数のものがデートDVの被害を受けていると答えた」

この答えは○が正解。現実に恋人たちがDVという意識がなく、愛情とはき違えてDVの形をとっています。

- ②「配偶者暴力支援センターに直接寄せられた配偶者からの暴力に関する相談件数を平成19年度内閣府が人口比で調査したところ、富山県は40位以下である。」

答えは×。富山県は14位で1,215件の相談が寄せられました。



家庭においては、まだまだ封建的な面が多い。自分でわかってはいたつもりが、理解できていなかったため、有意義な出前講座でした。

編集後記

第3号をお届けします。今年度の活動の一つに仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランスが大きく取り上げられました。チェックシートによって話し合いましたが、その結果は2ページにまとめられています。生活の充実感、仕事の充実感について、チェックしてみて、自分のライフスタイルを見直す機会にしてはどうでしょうか。

